

韓国教員大学校 留学体験報告書

留学・研修等時の 本学の所属、氏名	課程 中等 専攻・コース 国語 学年 3 氏名 工藤翔平
留学・研修等の期間	2008年8月29日～ 2008年12月21日
留学・研修等の国、大学名	大韓民国 韓国教員大学校
留学・研修等の種類	交換留学
奨学金名（金額）	なし
留学・研修等の目的・動機	韓国語が上手くなるためには韓国に行くのが一番だろう、と思っ て。
求められた語学力 及び具体的な準備内容	<p>韓国教員大には、福岡教育大のように『留学生のための支援制度』というのが特別に無いので、コミュニケーションはほぼ韓国語。留学生向けの授業もなく、留学生自体ほとんどいない。なので、簡単な依頼をする・簡単な質問をする・自分の気持ちを表す、程度の韓国語力は最低限欲しい。が、生活してれば言語は身に付くので、それほど心配は要らない。日本語ができる人もある程度いるので、困ったら頼れる。</p> <p>また、授業に関して担当の先生と相談することがあるので、ゆっくりでもよいので会話ができる程度の韓国語ができることが望ましい。</p> <p>準備に関しては、福岡教育大で韓国語の授業を受けたり、日本で行なわれている韓国語の検定試験(ハングル能力検定・韓国語能力検定)を受けたりしても良いと思う。</p>
留学・研修等の選考方法	前年の12月に申請。
情報収集方法	留学の2年前に福岡教育大と韓国教員大との研修で知り合った友人を通じて。また、福岡教育大に留学に来ていた留学生に聞いて。ビザなどの手続きに関しては釜山教育大に留学する人に聞いた。
語学クラスの状況 (人数、内容等)	語学クラスという形ではなかったが、教員大の国語科の学生に週1回、1対1で教えてもらえる機会を設けてもらった。途中から内容は完全に雑談になったが、そういうのが大事だと思う。友人の会話の中で韓国語は習得した。
履修科目・内容	日本史・東洋史特講・東洋中世史・国語形態論・国文学史・生活体育(ボウリング)
先方大学等の 単位認定状況	未だ分からない。

本学での単位認定状況	未だ分からない。
学年歴 (学期・試験・休暇等)	8月31日に入寮、9月1日に授業開始、12月13日に授業終了。試験は中間考査と期末考査。授業終了後にも集中講義があり、申請すれば寮に残れる(1日あたり5000ウォン程度必要、ただし寮で食事は出ないので、大学周辺に食べに行くことになる)。
履修に関する留学先大学のサポート(チューター等)	制度、というよりは周りの人の厚意に助けられた。履修登録は友人に手伝ってもらった。 韓国の学生に混ざっての授業だったので、担当する先生が配慮をしてくださった。
学習環境(図書館等)	施設は良い、図書館も良い。雰囲気が良いので、勉強しやすいし、分からない点があれば周りの人に聞くと答えてもらえる。
居住環境	学生寮(2~3人部屋)。学生寮が安いし、学生との交流の面から見ても良いと思う。韓国教員大では大半の学生が学生寮で生活している。費用は3食込みで授業期間(約3ヶ月半)約70万ウォン。
生活費(月額)	下記参照。
物価(食費、住居費等日本の物価と比較して)	全体的に安い。為替レートにもよるが、日本より3割程度安い印象だった。特に交通費は安いので、休日に国内旅行をしても良いと思う(長距離バスが発達している)。
留学・研修等の必要総額(渡航費、生活費を含む)	飛行機は往復で78000円、韓国では総額約230万ウォン。船で行くほうが安い。飛行機も、探せばもっと安いチケットがあったかもしれない。
治安状況	悪くない。
保険	特別かけなかった、『大丈夫だろう』と思ったので。必要な人は各自調べると良いと思う。韓国の薬は日本のものに比べて強いといわれているので、飲み薬は日本から飲み慣れたものを持っていったほうが良い。
その他注意すべき事項	その他気を付けることは、トイレトペーパーは水に流せないものが多い、教育実習に参加できるかもしれないのでスーツがあった方がよい、ドライヤーは現地調達(変圧器を通さない)、くらいである。 韓国のことを予習するよりも、日本のことを知っておいたほうが良い。韓国では日本の文化がよく知られているし、日本人がほとんどいないので質問の対象になる。韓国のことは現地で知ることができる。 上に書いたことに留意して、あとは自分で体験することをおすすめします。

留 学・語学研修等体験レポート（自由記述）

私は2008年8月末から12月末まで、韓国教員大学校に交換留学生として留学しました。

留学しようと思った最大の理由は、「勉強してきた韓国語を試したい、もっと韓国語が上手になりたい」という単純な理由からでした。私は大学に入学した直後に外国語の授業で韓国語に触れ、それ以来韓国語の勉強にのめり込みました。「もっと韓国語が上手になりたい」と思い、韓国教員大との交流にも積極的に参加してきた私には、今回留学することはごく自然なことでした。

授業開始の前日に入寮し、すぐに新学期が始まったのですが、周囲の友人、ルームメイト、大学本部の先生方に助けていただき、大きな問題もなくスタートを切ることができました。特に私が所属していた歴史教育科は、学生と教授、学生同士の仲が非常に良く、私もその輪の中に入り、すぐに親しくなることができました。

留学が始まってから2週間ほどは会話の内容も自己紹介が中心で、日本で勉強した韓国語がほとんど活かせていたのですが、話題の種類が増えるにつれ、言葉の壁というものがどうしても立ち上がりました。しかし、めげずに友人たちとコミュニケーションをとりつづけた結果、次第にネイティブの韓国語にも慣れ、上達のスピードも上がっていったように思います。日本の文法書には載っていない、生きた韓国語に触れることが、最も上達する方法だと思います。留学から1ヶ月ほど経つと、言語に関してはほとんど問題なくできました。

歴史教育科という学科の特性なのでしょうが、学科主催の研修旅行、学生主催の研修旅行にも数多く参加し、韓国の歴史的な遺跡や地理的な理解など、韓国という国を深く理解できたように思います。普通は日本人が観光で行かないような場所にも行くことができましたし、旅行先や宿泊先での友人たちとの思い出や情景の記憶は、かけがえのない財産となりました。韓国は交通費が安いので費用もそれほどかからず、こうした旅行に多く参加できました。その他、大学が主催する研修旅行や文化体験にも参加し、文化に対する理解も深めることができました。

留學生活の中で驚いたことは、韓国の人たちは日本の文化についてよく知っているし、日本に対してとても興味がある、ということでした。私はもともと日本史や政治に対して関心があったので、その分野での韓国の学生からの質問に対しては誤解がないように答えることができたと思いますが、日本のアニメや映画、ドラマに対する知識はさほど無く、私より韓国の学生の方が知っているという状況でした。韓国の人たちが日本に興味を持ってくれていることを嬉しく思う反面、日本人なのに日本のことを知らないという恥ずかしさも感じました。

留學中の一般生活についてですが、歴史教育科の学生と交流を持つ機会が多かったです。寮での食事、食事に行ったりお酒を飲みに行ったり、教授の家に行ってお飯をいただくこともありました。学内の施設が充実しており、先輩と卓球をしに行ったり、トレーニングルームで汗を流したり、カラオケに行ったりもしました。また、韓国教員大が寮に住む学生が非常に多いこともあり、歴史教育科以外の学生とも交流を持つことができました。飲み屋で偶然隣にいた学生とも仲良くなりました。日本人が自分しかいなかったもので、親切にしてくれましたし、親しく接してくれました。お互いの国についても話したりして、友人もたくさんできました。また、

学校から清州市内に向けバスが出ており、友人と遊びに行ったり映画を観に行ったり、1人で美容室に行ったり買い物をしたりもしました。学校自体はとても田舎なのですが、清州市内まで行けば割と都会なので、韓国っぽい活気に溢れた町並みも見ることができますし、生活に必要なものも買うことができます。

食事は、基本的に寮の近くに食堂があり、そこで食べました。現地の学生には評判が悪いですが、けっこうおいしいです。学校の外にも飲食店があり、そこまで出かけて食べることも多いです。寮から出前をとることも多く、夜食を注文することも多かったです。韓国料理といえば辛いというイメージがありますが、よほど苦手じゃない限り大丈夫です、というより慣れます(ただ、辛いものはものすごく辛いです)。私がもともと辛い食べ物が平気だったせいかな、食事に苦勞することは特にありませんでした。

私の場合、夏に留学が始まり冬に終わったのですが、季節が移るにつれ気温差がかなり大きくなったのを覚えています。最初の2週間ほどはすごく暑かったのですが、秋になると寒くなり、11月でも氷点下になるほどの寒さでした。防寒着は韓国で買ったのですが、寒さに対する備えも大事だと思いました。ある程度寒くなると、寮の部屋にオンドル(床暖房)が入るので、部屋はとても暖かくなります(たまに暑く感じるくらいです)。

韓国教員大にも教育実習があり、私は大学内にある附属高校に4日間だけ行きました。もちろん授業はできないので見学をしたくらいですが、日本の高校とは違う点も多く発見でき、高校生とも交流ができました。

もう一つ、私が留学中にしたことは、大学本部の「対外協力課」でのアルバイトです。内容は日本語と韓国語の翻訳、仕事の手伝いや日本との電話などでした。時給は4000ウォンでしたが、韓国語の上達が留学における最大の目標であった私にとっては、韓国で身に付けた韓国語の力を実践的に試すことができました。そのアルバイトでは、大学本部の職員の先生方に日本語を教えたり、対外協力課の先生方や留学生(当時は中国人留学生が3人いました)と一緒に遠足に行ったり食事に行ったり、とても良くしていただきました。留学の最後のほうに、福岡教育大の先生方が来られた時の通訳をしましたが、通訳の体験もでき、自分の成長も実感でき、留学の成果を認識することができました。

今まで書いてきたとおり、私は留學生活の中で多くの人たちに助けられ、本当に充実した留學生活を送ることができました。地理的な要因もありますが、韓国教員大の周辺には日本人が少なく、「留學」というものの成果を大きくするにはとても良い環境だと思います。韓国での生活に溶け込む、韓国を芯から深く体感する、韓国語力を身につける、といったことがしやすいと思います。苦勞もありましたが、それも留學で得た大きな財産だと思います。日本人が1人だった、というのも、色々な面で留學の成果を大きくしてくれた要因だったと思います。

ここまで長く書いてきましたが、ここに書いたのは留學のほんの一部です。留學してみたいと考えている人は、思い切って自分の背中を押してみてください。きっと一生の財産になると思います。

韓国教員大学校 留学体験報告書

留学・研修等時の 本学の所属、氏名	課程 初等教育教員養成課程 教科 コース 国語選修 学年 4年 氏名 柴田結子
留学・研修等の期間	2009年9月17日～ 2010年8月28日
留学・研修等の国、大学名	大韓民国 韓国教員大学
留学・研修等の種類	交換留学
奨学金名（金額）	JASSO 留学生交流支援制度奨学金（短期派遣）（月8万）
留学・研修等の目的・動機	幼い頃から、海外や国際協力に興味があり、実際に海外に留学して、国際的視野を持った立派な社会人になりたいと思う気持ちがありました。そのような中、大学で韓国にあるナヌムの家での歴史問題をめぐり日韓の若者が互いに理解を深め合うスタディプログラムや、教員大学との交流プログラムに参加し、日韓の歴史や文化の共通点や違いに触れるようになり、韓国を通してアジアや世界についての理解を深めたいと思うようになり、韓国へ留学をすることを決心しました。
求められた語学力 及び具体的な準備内容	・韓国語授業4単位 ・大学教授の先生からの推薦状 (私は、留学前、韓国語能力試験は受けませんでしたが、韓国語能力試験3級以上の能力があることが望ましいと思われます。)
留学・研修等の選考方法	・書類選考（留学計画書を韓国語で作成し、韓国教員大学へ提出しました。)
情報収集方法	韓国からの留学生や、留学した先輩方に留学について伺ったり、留学生担当の先生を通じて、韓国教員大学へ留学している学生にメールで連絡を取り、留学準備を助けてもらいました。
語学クラスの状況 (人数、内容等)	大学の授業としては、留学生対象の授業はなく、全て韓国語で授業が行われます。また、語学クラスは2009年2学期に留学したときには、ありませんでしたが、2010年度から大学内に韓国語を学ぶ語学堂が作られました。（別途授業料が必要、現在一ヶ月17000円程）
履修科目・内容	初等教育社会科へ所属 <2009年2学期> ○登録科目 『初等社会科教材研究（初等社会）』 『東洋の歴史と文化（教養）』 『基礎東洋画Ⅰ（初等美術）』 ○聴講科目

	<p>『日本史（歴史科）』</p> <p>『合唱（初等科）』</p> <p>・小学校教育実習に三週間参加</p> <p><2010年1学期></p> <p>○登録科目</p> <p>『初等歴史教育研究（初等社会）』</p> <p>『初等地理教育研究（初等社会）』</p> <p>『初等国語教育論（初等国語）』</p> <p>『音楽専攻実技Ⅰ<声楽>（初等音楽）』</p> <p>『生活科ヨガ（教養）』</p> <p>『生活科ジャズダンス（教養）』</p> <p>○聴講科目</p> <p>『基礎韓国画（美術科）』</p> <p>・附属小学校実習に三週間参加</p>
先方大学等の 単位認定状況	<p><2009年2学期></p> <p>『社会科教材研究（初等社会）』</p> <p>『東洋の歴史と文化（教養）』</p> <p>『基礎東洋画（初等美術）』</p> <p><2010年1学期></p> <p>『初等歴史教育研究（初等社会）』</p> <p>『初等地理教育研究（初等社会）』</p> <p>『初等国語教育論（初等国語）』</p> <p>『音楽専攻実技Ⅰ<声楽>（初等音楽）』</p> <p>『生活科ヨガ（教養）』</p> <p>『生活科ジャズダンス（教養）』</p>
本学での単位認定状況	単位認定予定は特にはありません。
学年歴 (学期・試験・休暇等)	<p>8月末～12月上旬…2学期</p> <p>12月上旬～2月…冬期休暇</p> <p>3月～6月上旬…1学期</p> <p>6月上旬～8月末…夏季休暇</p>
履修に関する留学先大学の サポート（チューター等）	チューター制度はありませんが、対外協力課の先生方がさまざまな手続きを助けてくださいました。また、福岡教育大学へ留学していた学生や、学科の学生、日本に関心のある学生が、授業や生活面でよく助けてくれました。
学習環境（図書館等）	<ul style="list-style-type: none"> ・午前6時～夜12時まで図書館の自習室が利用可能 ・夜10時まで大学内のスポーツジムとパソコン室が無料で利用可能 ・大学内と寮は無線インターネットが無料で利用可能 ・寮内は冷暖房完備
居住環境	寮（夏季休暇の間は、友達と一緒に大学近くのアパートで生活しました。）

生活費（月額）	月3万円程度
---------	--------

物価（食費、住居費等 日本の物価と比較して）	<ul style="list-style-type: none"> ・2009年～2010年の間、日本円100円につき、韓国ウォン1230～1300ウォン程度の換金レートでした。以下分りやすく、日本円換算でおおよその目安を記入します。 ・寮費一学期（3ヶ月）につき7万円程度（朝昼夕の寮食込み） ・冬季休暇寮費（10週間）3万円程度（食費抜き） ・携帯電話一ヶ月につき3000円程度（一年契約、携帯電話でインターネット利用をしない場合） ・日常生活品（ドライヤー、電気スタンド、シャンプー、洗剤など最初にまとめて買うもの）…1万円程度 ・三週間の教育実習費（バス代、給食代、実習用具等）…1万円程度 ・教科書…一冊につき2000円程度 ・外食…一回につき400円～800円程度 ・交通費…大学から清州市内まで片道120円程度、大学からソウルまで片道600円程度（2時間半程度）、大学から釜山まで片道2000円程度（4時間半程度）、ソウルの地下鉄やバスは一回につき100円前後）タクシーは約200円～と安く乗ることができる。
留学・研修等の必要総額 （渡航費、生活費を含む）	<p>50～60万円程度</p> <p>福岡空港～仁川空港 オープンチケット6万円程度</p> <p>仁川空港から大学まで片道1700円程度</p> <p>福岡港～釜山港 片道1万円程度</p>
治安状況	治安は良いですが、海外留学なので、貴重品は自己管理をしっかりと行うことが望ましいです。
保険	<ul style="list-style-type: none"> ・海外留学保険（9ヶ月分）7万円程度 （生命保険、病気にかかった場合に治療費が出るもの、盗難保険や損害保険はかけませんでした。） ・韓国教員大学でも別途保険に加入（保険費を大学側が一部負担し、個人が2千円程度を負担しました。）
その他注意すべき事項	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活品は現地ですぐ手に入るため、現地購入をおすすめします。（私は、飛行機で重量オーバーし、7000円程度の追加料金を払いました。） ・飛行機の重量制限を各航空会社のホームページで確認することが望ましいです。 ・韓国はコンセントの形が異なるため、変換プラグを必要に応じて持参する必要があります。 ・大学内に韓国の農協銀行があり、銀行口座を作ることができます。また、日本円から韓国ウォンへ換金可能です。韓国はカード支払いを多く行うため、銀行でカードを作ることをおすすめします

	<ul style="list-style-type: none">。・授業は全て韓国語で行われ、留学生対象の授業はなく、全て一般学生と同じ授業に参加します。授業は、所属学科の授業だけでなく、関心のある授業を個人的に担当教授の先生に相談し参加させてもらいました。授業申請が難しい授業は聴講という形で参加させてもらいました。また、語学に心配がある場合は、ソウルにある私立大学の語学堂に数ヶ月、事前に通うこともいい方法だと思います。（延世（ヨンセ）大学校、梨花女子（イファジョシ）大学校、高麗（コリョ）大学校は韓国の中でも有名な大学で、韓国語の語学堂も充実しているようです。）・教育実習に参加したい場合は、事前に担当教授と実習担当教授の先生方に相談をする必要があります。（私は最初3年生に所属したため、実習に行きやすかったのですが、他学年に所属する場合は、申請授業との兼ね合いを考えてから決めてください。）実習に参加の考えがあるのであれば、スーツを持参するのが望ましいですが、日本とは少し異なり、特に女性の場合は自由なスタイルでのフォーマル服を着ています。・大学内で自転車の貸し出しも行われています、学期の最初に申請を行えば、利用可能です。
--	---

留学・語学研修等体験レポート（自由記述）

私は、幼い頃から、海外や国際協力に関心があり、将来国際的な広い視野をもった立派な社会人になることが夢でした。さまざまな人や異文化に出会うことを通して、世界を深く理解することのできる柔軟で豊かな心。日本を越え、世界に羽ばたき、民族を超えて互いに響きあう心。そのような大きく豊かな心を持ちたいという思いから、海外留学を考えるようになりました。

そのような中、私は留学前に韓国に二回研修に行く機会を得て、韓国は日本と歴史的にも文化的にも共通点の多い国であることを知ると同時に、日本とは異なる魅力をもった国であることを知り、日韓の関係を通してもっと深く韓国の文化や歴史を理解したいと思うようになりました。また一方、韓国料理や伝統的な建物、伝統衣装に見られる色鮮やかな色彩や、その伝統模様心が惹かれ、韓国の伝統的美術、韓国のもつ固有の『美しさ』を学んで見たいと思うようになり、韓国への留学を決心しました。

留学を始めたばかりの頃は、韓国語が全く話せず、福岡教育大学へ留学していた学生や、韓国人のルームメイト、対外協力課の先生方、そして初等社会科の友達に非常によく助けてもらいました。いつも『これは何と言うの？』の連続だったように思います。そのような中でも、友達は非常に親切にしてくれたおかげで、毎日がとても楽しいものとなりました。そのような中、私を特に大きく成長させてくれたのが、韓国での教育実習の体験でした。大学の同じクラスの先輩や先生方の配慮により、留学生である私が、3週間韓国の実習生達とともに教育実習へ聴講参加することができるようになったのです。『教育実習』に参加し、韓国の文化や歴史、価値観に出会ったとき、私の知っている日本の『教育実習』とは異なる部分が多かったため、正直言うと最初はカルチャーショックを覚えて戸惑ってしまいました。しかし、自分が今までずっと日本人の視点から物事を捉え、物事の善しあしをつけていたことに気づいて反省し、異文化に対する見方を変えるよききっかけとなりました。そして、教育実習に参加する過程を通して、韓国の教育はもちろん、韓国の人々の文化や考え方、心の温かさに触れて、韓国の文化を受け入れるようになっていきました。このような教育実習での実際的な体験を通し、私が今まで考えていた以上に教育にはその国の文化と歴史が強く反映されており、学習の最終目標の方向性は似ていても、その国の持つ文化と歴史の違いによって教育内容や学習方法が変わっていくことを実感しました。そして、教育そのものが、未来に与える影響力の大きさも同時に考えるきっかけとなりました。

異文化での生活の中で難しいのが、コミュニケーションです。特に、言語が十分に話せないときは、大人数での会話についていけなくてもどかしい思いをしたり、また、ささいなことでも気づかないうちに相手を傷つけたりまた傷ついしまったりして、誤解が生じてしまうこともあります。私も、ある何気ないことがきっかけとなって、親しい友人との間で誤解が生じた時、その誤解を解こうとすればするほど、誤解は大きくなってしまっていました。その時は、このような誤解を解けないという状況自体が、まさに自分が『異文化』を体験し理解する機会だとは知らず、どうして、私の心を理解してもらえないだろう、どうして今までこんなに仲が良かったのに、心が離れてしまうのだろうと悩んでしまいました。そのような状態の中で、『もっと韓国語が話せたら』と思うことがしばしばありましたが

、これは、正しくもあり、またこれだけでは欠けていることに後になって気づきました。なぜなら、『韓国語』を話し、相手と上手にコミュニケーションをとるには、その文化を十分に知ることが大切だからです。私は、留学生活が最初の一学期終わった後に、韓国語の実力はもちろんですが、その言語的実力だけではなく、韓国の文化を知らずに、相手に迷惑をたくさんかけてしまっていたことも多かったことに気づきました。けれど、韓国教員大学の友達や先生方はいつも私を歓迎し、困ったときは助け励まし、温かく見守っていてくださっていたことに本当に感謝の気持ちでいっぱいです。そんな多くの韓国の人々の心の温かさや優しさにふれて、次第に、私の心にあった傷やいやされ、韓国の豊かな文化の中で心も豊かになっていく気持ちになりました。

言語も文化も隣国であるが故に似ている日本と韓国ですが、似ているがゆえにその文化違いが触れたときに理解が難しくなることもあります。これは、決して日本と韓国との関係だけではなく、どのような関係でも近い関係であればあるほど理解が難しい場合ということが、結構あるものだと思います。けれども、お互いがお互いの文化や歴史を認め、許し、へりくだった心で相手を受け入れ始めるときに、民族や文化を超えて互いに信頼しあえるよい関係を築くことができることを知りました。そして、このような留学体験を通して得た友人と経験は、私の人生の宝物となりました。

今もし、海外留学を迷っているなら、ぜひ大学時代を生かして思いっきりチャレンジしてみてください！！今まで見えなかった新しい世界を知って体験し、自分の視野が広がります。そして、世界が、異文化が、そして日本がもっと好きになると思います。

このように、今振り返ることができるのも、韓国教員大学の友達や先生方、そして日本の家族や友人達、先生方のおかげです。本当にありがとうございます。この感謝の気持ちを忘れずに、これからも成長し続けたいです。韓国留学を通して出会った多くの人々からいただいた、未来に向かって輝くバトンを今度は私が次の世代へ伝え渡す番です！